

令和6年5月12日（日曜日）

郷土の歌人 遺徳しのぶ

大西民子生誕100年

盛岡で「きららか歌碑」碑前祭

生誕100年となる盛岡市出身の歌人大西民子（1924～94年）の「きららか歌碑」碑前祭（もりおか民子の会主催）は11日、同市本町通の上の橋緑地で開かれた。大西が立ち上げた波瀾短歌会の会員や母校盛岡二高の生徒ら約80人が遺徳をしのんだ。

出席者を代表し、同会発行責任者の中島やよびさん（85）が大西の代表歌「きららかにいばむ鳥の去りしあと長くかかりて水はしづまる」の碑に献花。笑顔で写る大西の写真に手を合わせた。

同市のソプラノ歌手笹原美香さん（52）は、大西の歌に作曲家平井丈一朗さんが曲を付けた「かたはらに」「一本の木」を披露。同校文学研究部が短歌を朗読



大西民子の歌碑に献花する盛岡二高の生徒

し、音楽部が旧校歌など5曲を合唱した。

文学研究部の山内花音さん（3年）は「長い時がたつても愛される短歌を多く残した。素晴らしいと思う」と誇りをかみしめた。

節目の今年には盛岡市の県立図書館と、亡くなるまで過ごしたさいたま市の大宮図書館で企画展が開かれている。碑前祭では同館所蔵の歌集や生誕100年記念冊子など計約40冊が盛岡二高に寄贈された。

大西は戦後女性歌人の第一人者。歌集により遼空賞、詩歌文学館賞などを受賞。歌人としての功績から紫綬褒章を受章した。

民子の会の阿部正樹会長は「短歌界に大きな役割を果たした大西さんを誇り、古里の歌人としてもっと伝えていく」と語った。

（岩手日報）

この記事は岩手日報社の許諾を得て転載しています。